

リレーパック80反対! 安保改正! 連のアド侵略警戒!

反戦 反安保

すべての受験生諸君!

わが学生会議から君たちに、反戦・反安保闘争へつなげて訴える。こんなに、われわれをとりまく情勢は、まさに危機的模様と深かつある。ソ連のアフガニスタン侵略を契機にして、スターリニスト(ユセ共産主義者)と帝国主義擁護者との醜悪な戦争が一挙にエスカレートし、世界をのけつくとうとしている。どうしたもんか! 大平政権は、自衛隊のリレーパック80への参加という消し残す攻撃をしかけてきた。(まや) 大平政権は、日本軍事同盟を開拓的構築し、自衛隊の増強をけ幸運もうとしているのだ。

われわれは行動者。人民の反対の声を封殺しながら強行されたりリレーパック80を強制し、反戦闘争の巨匠な高陽を莫たらねばならぬ。自衛の欲望を打ち砕くべく、学生会議の旗の下、ともに叫みうるよ!

リレーパック80反対!! 自衛隊の帝国主義軍化阻止!!

すべての受験生諸君!

2月26日以来、ハワイ沖で実施されているリレーパック80・環太平洋合同演習(アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各海・空軍の合同演習)に、海上自衛隊が公然と参加すると、驚くべき事態が生み出されていく。実質上の海外派兵ともいべきこの防衛・軍事政策の危険性エスカレートを、われわれは許してはならない。

今回の事態はまさに、東洋圏(うち日本主義的軍隊へと自衛隊を確立しようとする大平政権の自論見を露骨に示すものにほかならぬ)。それを通じて彼らは、日本帝国主義の政治的威信を誇り、資源開拓と軸として新殖民地主義的進出にのりだすが如きをしようとしている。またそれは、兵器市場の開拓により、経済の軍事化を促進し、もって日本経済の偏ったい未開拓の経済危機からの脱出をけらうとする独立アリミヨニアジーなどの意向を反映したものもあるのだ。

日帝擁護者どもはいま、このような独自の帝国主義的利害を貫くため、自衛隊のいっそうの高度化に取り組み活動に狂奔しているのだ!

リレーパック80軍事操縦化批判!! 日本の軍事化許さず!!

しかも大平政権はついぞ米帝との軍事的関係の緊密化、つまり米帝の世界支配網の積極的にみにまいることも、を実現しようとしている。

こんなカラーテー政権は、村山正義を始めくうちだすとともに、全世界的な規模での軍事体制の力と直に連携起となつている。とりわけその中心に中東をすえ、11万人の急進展開能力の創設やオマーン、ソマリア、ケニアへの基础设施を急ぐなど、中東油田地帯をめぐるソ連との石油争奪戦に備えようとしている。

そして米軍の中東への重点移動に伴って、アジア・太平洋地域における対ソ包围網の再編に、日帝の軍事力を最大限動員することが米帝の狙いである。そのため彼らは、海上防衛体制の完備などを内容とする防衛力強化の要求を日本政府につきつけ、さらに主導権機・早期警戒機の導入などを通じて自衛隊の装備の高度化をしきりに足がしれている。

カラーテー政権は、「日本は中東の安全保障上の柱の石」(1983年ラウンジ内閣報告)という判断のもとに、日本軍事同盟といっそう強化し、さらにこれにANZUS(米・オーストラリア・ニュージーランド軍事同盟)を結合させ、「アジア版NATO」ともいべきJANZUSの結成からも展望しているのだ。

まさにこのようやアジア版NATO創設への第一歩として、リレーパック80は強行されただのだ。そして自衛隊のリレーパック80参加は、日本・大平政権が、米帝の追求に積極的に協力・参加しようとしていること(「方々」)(工研会は王室の海上自衛隊)

はっきりと示すものにはおかならず。

われわれは、労働者・人民の犠牲のうえにすすめられる太平政権のこの危険な軍事行動、反対斗争の爆発を防ぐことをしなくてはならない！

ソ連官僚によるアフガニスタン軍事侵略運動せよ!!

ところで、このような帝国主義権力者による軍事戦争政策にいち早く抗議をかけたのが、ソ連クレムリノ官僚によるアフガニスタンへの軍事侵略とカルマル政権のテッキスゲトという事態であった。

クレムリノ官僚どもは、いまお尋ねとり直轄軍を送り込みながら、抵抗するアフガン人民の虐殺に血道を上げている。そもそもソ連派であったアミン政権が、クレムリノ官僚みずからを葬り去ったのは何故か。

78年4月、クレムリノ官僚による連派のタラキを擁立して軍事クーデタを強行し、アフガニスタンに親ソ政権を確立した。「スターリニスト革命の输出」方式で手段をえらばず「社会の指導部隊にささ」やり方一のもとに獨立されこのタラキ政権は、上からの強制的な全般化政策を強行した。アフガン人民の現実から完全に遊離したこのような政策は、強烈な反発をひき起こし、やがてそれはイスラム教徒反政府ナリとして現出した。反政府ナリラの拡大によって親ソ政権の存立する差くなり、しかもタラキにとて代わってアミンがソ連になりしきじめにことに危機意識を持つらせたクレムリノ官僚よ、ついに自ら軍隊を派遣し首のスグカラを取付いた。

そうすることあり連スターリニスト官僚どもよ、アフガニスタン親ソ政権=中東進出のための歴史を確保したこと。そしてそれが償が、アフガン人民とい連兵士の丈量の血だ。

まさにソ連のアフガン侵略こそは、クレムリノ官僚どもの後進国革命戦略=「スターリニスト革命の输出」方式の破産の絶叫いかがいのなものでもない。

労働者・農民・兵士の下からの階級的組織化を怠り、軍事力によて「革命を構成するソ連官僚の反ソ連性！」しかもその破産を、アフガン人民の血で贖あうとするソ連スターリニスト官僚ども！ われわれは彼らを決して許さず、ソ連のアフガニスタン侵略運動の声をあけねばならぬ。

一切の隠匿を空き破、反対斗争の爆発を先立ちとろう!!

すべての反駆生諸君！

ソ連官僚のこのようない反ソ連性の軍事行動を凶暴とし反ソ感情を煽りこながら、太平政権はその軍事・対外政策を飛躍的にエスカレートさせようとしている。だからこそ逆に日本帝権力者の叫ぶ「国防」とは、独立フルジョアジーの利害の均衡にのみならぬ。われわれは太平政権の軍事・対外政策の階級的本質を暴きだし、ソ連性の階級性を封殺し反撃していくにむかはずならぬ！！

オロニ國鐵勤労車労組の對外的労働者は、2月23日早朝〈自衛隊のリバッカ参加阻止〉<ソ連のアフガニスタン侵略運動>などと工書きされにソロガニ列車を全国にかけめぐらせ、また翌24日、構員闘争地リバッカ反対斗争を目的的に牽引しめさ、労働者階級の怒りと燃えあがらせた。わが主導運も手に労作と連携し、斗争を遂行力なしにアヘンとしこめようとする社公党・統情幹部を運動から、戦斗的に斗ひめいてきた。すべての諸君！ 戦斗左翼生共の斗争放棄を許さず、反戦・反対斗争の更なる展開を克ちとろう！

ソ連反民学同・学生間の腐敗した廻りを許さず!!

最後にソ連のアフガニスタン侵略に対して「不同意である」とアイマイな態度を表明したのが民学同・学英系諸君である。「ソシ彼らの気持にアイマイなどころがあるわけぢやない。ソ連を反帝平和勢力と美化する彼らにとって、今回の事態はあくまで反帝平和勢力の前進であり喜ぶべきことだ。ところが学生大衆にそう言つわけにはいかない。ソ連の劇場は誰もが認めるところからだ。そこで「同意」となる。つまりソ連は正しいが、人とかやり方には同意できない、といつては、毒ガスやナパーム弾をも使用してアフガン人民を殺りくるソ連官僚に、もう少しウマくやつてくれ、とお願ひしているのが彼らだ。アフガニスタンの現状に一片の怒りすら覚えたり感りほつて感性の保持者=学共を断じて許さぬ！